

浜松東照宮 (元城町東照宮)^{もとしろちょう}

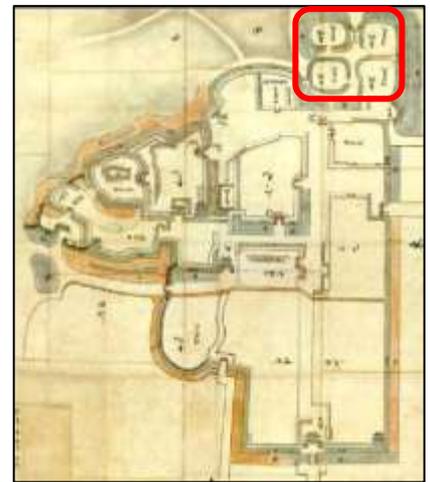
古より東海道の要所として栄えた宿場町浜松、現在浜松城のある一帯にはもともと引間城（引馬城、曳馬城）と呼ばれる城がありました。1568年（永禄11年）今川方の拠点であった引間城を攻め落とした徳川家康は、「引馬→馬を引く」という名前は負け戦を意味するため縁起が悪いということで、地名を「浜松」に改め、城を大幅に拡大して浜松城を築き、城が出来るまでの間、引間城を居城としました。江戸時代には500社を超えた東照宮も、明治維新後、廃社や合祀が相次ぎ現在は130社程とされています。中でも居城跡にある東照宮は浜松だけと言われ、古城と言われている引間城址、その一角に若き日の家康を偲び、浜松東照宮が建立されました。



引間城址は浜松城が築城された後、江戸時代は米蔵として使われていましたが、明治維新後、徳川慶喜公の名代で浜松藩代として任命された井上八郎氏（延陵翁）によって東照宮が明治17年創建されました。以後、昭和20年に戦災により全焼失しますが、昭和34年に元城町の大石力氏などのご尽力により再建され元城町の氏神として今日に至っています。



家康公没後400年を記念して、平成27年建立。左の像が三方ヶ原合戦に臨む勇ましき若き家康の姿、等身大。豊臣秀吉も日吉丸と呼ばれていた頃、引間城で猿真似をして皆を楽しませたとの記録が残っている（右の像）。



社殿屋根と三つ葉葵の御紋



灯籠にハートマークでラブパワー？
日本古来の魔除けの「猪目(いのめ)」文様

浜松城絵図（江戸時代）
右上が古城「引間城」
赤枠内左上が現東照宮

歴史秘話

引間城の女城主として城を守っていたお田鶴の方は、遠州に攻め入ってきた家康との戦いの末、命を落としました。お田鶴の方は、家康が駿府で人質だった頃「家康・初恋の人」とも言われ、椿姫観音として古城近くの元浜町の一角に祀られています。出世凧として有名な浜松まつりの凧揚げもこのお田鶴の方の長男、義廣の誕生を祝って揚げられたのが発祥ともされています。



アクセス

- ・JR浜松駅からバスで10分。浜松城公園入口バス停下車。
- ・浜松城公園駐車場より徒歩5分

浜松観光ボランティアガイドの会

浜松市中区元城町100-2（浜松城内）

TEL&FAX：053-456-1303

<http://www.hama-svg.jp/>